

Dedicated to Man's Fight against Disease and Pain

病気と苦痛に対する人間の闘いのために

当社は、この企業理念のもと、いまだ満たされない医療ニーズに応えるため、真に患者さんのためになる革新的な新薬の創製を目指し、挑戦を続けています。



株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、1717年に大阪の道修町で薬種商「伏見屋市兵衛商店」を創業し、本年で300周年を迎えました。また、1947年の株式会社設立から70年という節目の年を迎えることができました。これもひとえに、株主の皆さまをはじめとする多くの方々のご支援によるものと考え、深く感謝申し上げます。

第69期(2016年4月1日から2017年3月31日まで)につきましては、長期収載品は後発品使用促進策の影響を受けたものの、抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」が非小細胞肺癌を中心に使用が大きく拡大したことに加え、欧米での売上拡大に伴うロイヤルティ収入も増加しました。その結果、売上収益は前期より大きく伸長しました。

利益面につきましても、売上増に伴い売上原価が増加し、研究開発費ならびに販売費及び一般管理費も増加しましたが、売上が大幅に増加したことに加え、抗PD-1抗体特許侵害訴訟和解による一時金収入を計上しましたことから、大幅な増益となりました。

新薬創製の成功確率が低下する中で、当社は新薬開発型製薬企業として、「製品価値の最大化」、「R&Dの変革」、「海外への挑戦」、「企業基盤の強化」に取り組んでいきます。

課題と取り組み

製品価値 最大化	持続的な成長を実現するため、オブジーボをはじめとする製品の価値最大化を目指します。積極的な研究開発活動、全社横断的な部門間連携と人材育成機能の強化を通じて、早期の上市・効能追加取得、上市から最短でのピークセールス達成を目指します。また、製品ライフサイクルのステージごとの環境変化を機敏に捉え、常に競争優位性を担保しうる戦略立案を実現し、各製品のポテンシャルを最大限引き出せるよう取り組みます。
R&Dの変革	画期的新薬を継続的に創出するために研究開発力を強化します。化合物オリエントからの創薬だけでなく、がんなどの重点研究領域を定めて経営資源を集中するとともに、外部との研究・創薬提携も拡充することで、ファーストインクラスが狙える独自性の高いパイプラインの充実を図ります。また、医療ニーズの高い分野での革新的な化合物の導入や新技術の獲得にも積極的に取り組みます。
海外への挑戦	自社で創製した新薬を世界中に提供できるよう、特に抗がん剤などのスペシャリティー製品について、海外での自社販売を目指して取り組みます。すでに、韓国・台湾では、現地法人を設立して自社製品の販売を開始しており、今後は欧米での販売も視野に入れて、開発体制などの整備・強化にも努めます。
企業基盤の強化	さまざまな環境の変化に対応し、厳しい企業間競争に打ち勝つため、人材育成や多様性の向上に努めるなど、企業基盤の強化に引き続き取り組んでいきます。さらに、企業の社会的責任(CSR)活動では、すべてのステークホルダーに対して社会的責任を果たすべく、活動を推進していきます。

わたしたちは、病気で苦しんでいる世界中の患者さんに、革新的な新薬を一日も早くお届けするために、一丸となって挑戦を続けていきます。株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1968年(昭和43年)に中央研究所(現在の水無瀬研究所)の建設を記念して建立された石碑。小野薬品の企業理念がここに刻まれています。

代表取締役社長 相良 暁